

2023 中間期ディスクロージャー誌

目次

2	業績ハイライト	10	資料編
4	ビジネス概況	279	ディスクロージャーポリシー
6	個人のお客さまへの取り組み	280	当社の概要
	法人のお客さまへの取り組み	280	格付情報
7	投資家のお客さまへの取り組み	280	当グループの概要
	ブランドスローガン“託された未来をひらく”		
8	サステナビリティへの取り組み		
9	金融円滑化への取り組み		

- 本誌は銀行法第21条および第52条の29に基づいた説明書類であり、当社のディスクロージャーポリシーに則り適切に開示しています。
- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものであることにご留意ください。

業績の振り返りと株主還元について

当中間期の実質業務純益は、前年同期比では、19億円減益の1,663億円となりましたが、法人事業における与信関連手数料を中心に手数料関連利益が好調に推移したことに加え、株価上昇や円安等によるポジティブな影響もあり、堅調に推移しました。

このような状況を踏まえ、通期予想を5月公表時から100億円引上げ、3,300億円へと上方修正致しました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期比599億円減益の440億円となりました。

これは、デフレからの脱却が視野に入り、政策保有株式の削減活動を進めると同時に、株価下落リスクをヘッジするために保有しているベア投信のポジション縮小・再構築を行う最適のタイミングと判断したことによるものです。

これに伴い親会社株主に帰属する当期純利益は、通期予想も850億円へと修正を行いました。

実質業務純益が堅調に推移しており、資本・財務健全性へのネガティブな影響もないことから、2023年度

(通期)の1株当たり配当金(普通株式)の予想について変更はありません。

なお、当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げ、投資家の皆さまに投資いただきやすくするために、2024年1月1日を効力発生日とする株式分割(2分割)を実施致しました。期末配当については分割比率を踏まえて行いますが、年間配当予想について実質的な変更はありません。

株主還元方針

1株当たり配当金は累進的としつつ、利益成長を通じた増加を目指します。連結配当性向40%以上を目安に決定します。

なお、自己株式取得については、資本十分性の確保を前提として、中長期的な利益成長に向けた資本活用と、資本効率性の改善効果とのバランスを踏まえつつ、機動的に実施致します。